

議 事 録

会議等の名称	令和6年度 第1回 東御市脱炭素化事業推進協議会 再エネ化推進部門分科会	開催日時	令和6年5月27日（月） 午後4時00分～午後4時30分
		場 所	本庁舎2階 202会議室
主催者(事務局)	市民生活部 生活環境課	司会者	田中 洋城（ゼロカーボン推進係）
出席者(敬称略)	別紙「出席者名簿」のとおり		
欠席者(敬称略)	別紙「出席者名簿」のとおり		
議 題	(議題) 意見交換 ・重点対策加速化事業における間接補助事業について	(配布資料) 別添のとおり	
決定事項	なし		
確認・検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・自己負担が少なくなる仕組みづくりについて検討する。（金融機関との連携やPPA） ・補助金を充てた場合のシミュレーションについて検討する。 		
次回への検討事項			
次回開催	(日時)	未定	(場所) 未定

討議内容及び経過	(発言者名)	
1. 開会	田中主査	(開会)
2. 意見交換	田中主査	・本日は4月から開始している太陽光発電設備及び定置型蓄電池の間接補助
		事業についての情報共有や状況について教えていただきたい。
		・まずはじめに担当より、補助金の概要等について説明する。
	廣田主査	(資料に沿って概要を説明)
		・補助金概要について
		・補助金申請実績について
		・補助金の広報活動について
	田中主査	・まだ事業を開始して2か月しか経過していない中で判断するのは時期尚早
		かと思うが、皆様の会社での状況はどうか。
	分科会長	・問い合わせはいくつかある。
		・一番の問題は補助金だけで事業はできないことである。PRの問題ではない。
		・金融機関を紹介することなどを検討したらどうか。
	委 員	・買取単価が高い時は初期投資の回収が何年であるなどの提案ができたが、
		今は単価が安いいため何十年と掛かってしまい、提案しづらい。
		・補助金だけでなく、他にメリットがあればいいが、今のままでは難しい。
	分科会長	・ハウスメーカーは0円で設置し、使用料を徴収する方式でやっている。
	小松部長	・中部電力でも同様のことをやっている。
	分科会長	・PRというより、自己負担が少なくなる仕組みづくりが重要。
		・設立した会社で小売電気事業をやるのであればPPA方式でやればどうか。
	田中主査	・まだ設立した会社では一般家庭向けのPPAは準備できていない。
	委 員	・シミュレーションを自分でやってみるとよくわかる。補助金を充てても電気
		代を支払っていた方が良いという結論に至ってしまう。
	委 員	・当社では4月に広告を出したが、反響が少なかった。
		・金額ではないのではないかと感じた。
	廣田主査	・中には、全額ローンを組んでいる申請者もいた。
	分科会長	・シミュレーションしてみることが大事。
	廣田主査	・個人的にシミュレーションしてもらったが、太陽光発電設備は7年程度で
		回収できるが、蓄電池は20年ほど掛かってしまうとのことだった。
	分科会長	・どなたかのお宅の電気明細を出してもらえればシミュレーションする。
	田中主査	・庁内で検討し、必要であればお願いしたい。
	委 員	・県の共同購入事業が始まれば増えるかもしれない。
	小松部長	・自己負担がないPPAにした場合、環境省の補助金の対象となるか。
	田中主査	・事業計画変更が認められれば可能。
	分科会長	・補助金以外の部分をどのように解消していくか検討する必要がある。

